

今週の為替相場見通し(2025年4月21日)

総括表		注	先週の値動き		今週の予想レンジ
			レンジ	終値	
米ドル	(円)		141.62 ~ 144.36	142.22	140.00 ~ 145.00
ユーロ	(ドル)		1.1264 ~ 1.1424	1.1390	1.1350 ~ 1.1500
(1ユーロ=)	(円)		161.27 ~ 163.12	162.05	160.00 ~ 164.00
英ポンド	(ドル)		1.3068 ~ 1.3300	1.3299	1.2800 ~ 1.3500
(1英ポンド=)	(円)	*	184.39 ~ 190.08	188.00	184.00 ~ 194.00
豪ドル	(ドル)		0.6276 ~ 0.6394	0.6377	0.6200 ~ 0.6700
(1豪ドル=)	(円)	*	86.05 ~ 91.33	90.26	88.00 ~ 92.00

(データ)先週の値動きに関して、注の欄で無印の項目はみずほ銀行、*印の項目はブルームバーグ。

1. 米ドル

国際為替部 為替営業第一チーム 尾身 友花

(1)今週の予想レンジ: 140.00 ~ 145.00 円

(2)ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

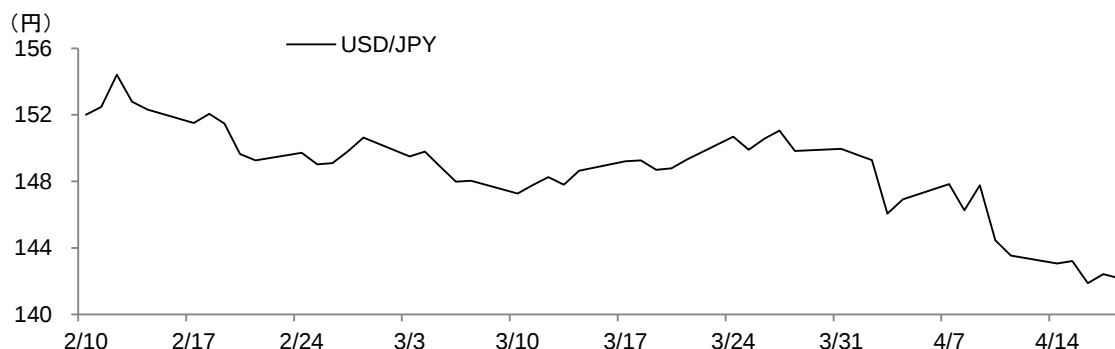
先週のドル/円は、年初来最安値を更新した。週初14日、143.73円でオープンしたドル/円は日米通商交渉への警戒感から142円台前半まで下押し後、142円台後半を中心に上下動。海外時間は、市場心理改善を受けた米株上昇が支えとなり一時144円台を回復したものの、米金利低下などが重しとなり143円付近に水準を切り下げた。15日、ドル/円は仲値に向けて143円台後半に上昇も、その後は値を戻して143円を挟みもみ合う展開。16日、ドル/円は米国による対中規制強化の影響が懸念される中で、日米通商交渉で為替も議題に上がるとの思惑が交差し142円台前半にじり安。海外時間は、パウエルFRB議長による関税の影響をこれまで以上に警戒する旨の発言を受け、米株安とともに142円を割り込んだ。17日、ドル/円は昨年9月18日以来の安値となる141.62円に続落後、日米通商交渉で為替が議論の対象にならなかったことが伝わり、142円台後半に反発。海外時間は、143円台に乗せるも、低調な米経済指標が嫌気され一時142円を割り込んだ。その後は、米株反発が支えとなり、142円台半ばに水準を戻して引けた。18日、イースター休暇で市場参加者が限られる中、ドル/円は142円台前半を中心に小動きとなった。

今週のドル/円は140~145円でのレンジ推移を予想する。先週は日米通商交渉への警戒感や為替が交渉の議題に上がることなどが警戒され、ドル売り円買いが進行したが、週後半に行われた初回の日米通商交渉では具体的な事項について日米間の合意形成はなく、米国の求める事項を日本が確認し、再び協議が行われることとなったことで、ドル/円の下落は一服した模様。今週は21日(月)~26日(土)に世界銀行・IMF春季会合が予定されており、加藤財務相がベッセント米財務長官との閣僚級協議を模索中との報道があり、為替について議論される可能性があるため動向には注目。また、米国がドル高是正の国際的な通貨協調を模索しているとの警戒があるが、通貨の競争的な切り下げを回避することなどに留まるとの意見もあり、一段のドル安を誘発するかについては米政権と各国の協議内容次第か。

(3)先週までの相場の推移

先週(4/14~4/18)の値動き:

安値 141.62 円 高値 144.36 円 終値 142.22 円



(資料)ブルームバーグ

2. ユーロ

国際為替部 為替営業第二チーム 范 哲遠

(1) 今週の予想レンジ: 1.1350 ~ 1.1500 160.00 ~ 164.00 円

(2) ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週のユーロ/ドルは方向感なく推移した。14日、1.1341でオープン。欧州株高を受け一時週高値となる1.1424に上昇も、その後は独金利低下が重しになる中で1.13台半ばを中心にレンジ内での推移。15日、独4月ZEW景気期待指数の弱い結果や欧米通商交渉に関する難航報道を受け、一時週安値となる1.1264に下落。16日、ドル全面安の流れを受け、一時1.14台に乗せた。その後は目立った材料もない中、1.13台後半で推移。17日、ドル/円の上昇が波及し1.13台前半に下押しした後、レンジ推移した。ECB政策理事会は市場予想通り▲25bpの利下げを実施し、ラガルドECB総裁は講演にて「経済見通しの不確実性により下振れリスクが高まっている」との考えを示したが、ユーロ相場への影響は限定的だった。18日、グッドフライデーにつき休場。結局1.1390で越週。

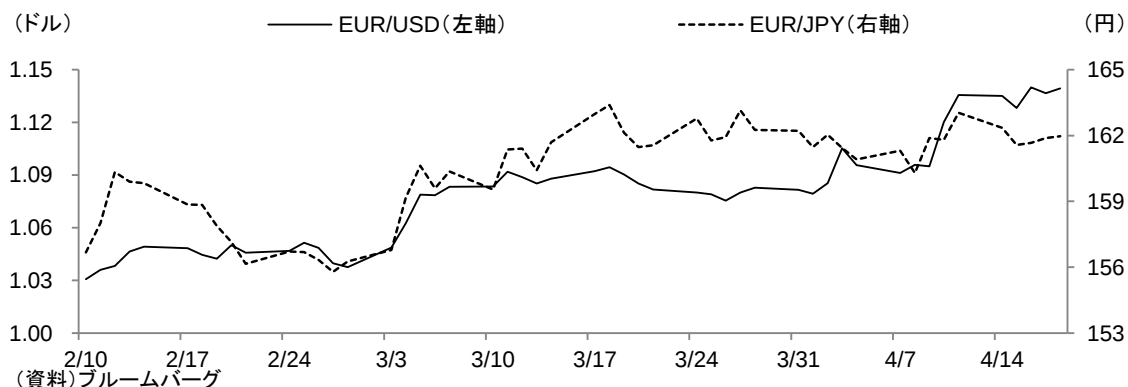
今週のユーロ/ドルは引き続き方向感なく推移するものと予想。金融政策についてみると先週のECB政策理事会による利下げ決定は市場予想通りの結果であった。一方で先の利下げ可能性についてはトランプ米大統領による通商協議が続いている中、不確実性が高い状況もあり、新しいヒントは得られなかった。引き続きトランプ米大統領による通商協議の動向が相場を動かすテーマとなろう。先週17日(木)に日米間で関税交渉が行われた。協議後の記者団に赤澤経済再生相は「為替は議題に上がらなかった」と発言、市場への反応は限定的であった。今週については米国現地時間の24日(木)午後にベッセント米財務長官と加藤財務大臣が会談予定であり、為替分野を含めて協議が行われる。対中との通商協議も含め、協議内容次第ではリスクオフからドル売り再燃となる可能性があり、ユーロはドル売りの受け皿として底固く推移するだろう。今週のイベントは23日(水)にG20財務相会議が米国で開幕。経済指標は、22日(火)ユーロ圏4月消費者信頼感、23日(水)ユーロ圏4月製造業・非製造業PMI、24日(木)独4月IFO企業景況感指数が予定されている。

(3) 先週までの相場の推移

先週(4/14~4/18)の値動き:

(対ドル) 安値 1.1264 高値 1.1424 終値 1.1390

(対円) 安値 161.27 高値 163.12 終値 162.05



3. 英ポンド

欧州資金部 神田 史彦

(1) 今週の予想レンジ: 1.2800 ~ 1.3500 184.00 ~ 194.00 円

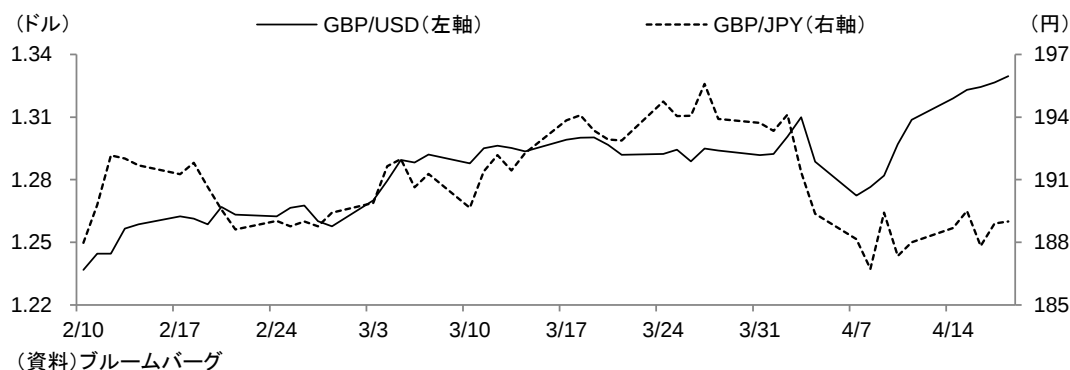
(2) ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週の英ポンド相場は堅調推移。週初14日に1.3091で取引開始。週末にトランプ米政権が「一部ハイテク品目を関税リストから除外する」と発表したことを受けてリスクオンで欧州市場は寄り付き、英ポンドも堅調。緩やかながら勢いは続き、16日には英3月CPIが予想を下回ったものの1.32台後半まで続伸。17日も1.32台での推移が続いた。英ポンドは対円でもみ合い。14日に187円台後半で始まる。英ポンド買いにつれて189円台まで上昇するも、15日米国時間の米テック企業関連のヘッドラインにリスクオフの円買いで188円台へ。しかし16日に中国が対米交渉へ前向きな姿勢を示すと再び189円台へ上昇。米国時間に、日米交渉を前に円高方向に振れ187円台となるも、特に為替への言及がなかったとの結果に17日は再び189円台に上昇する場面も。18日はグッドフライデー休暇で英休場だった。

今週の英ポンド相場は、引き続き関税ヘッドラインに振らされるリスクに留意も、堅調推移を見込む。連日状況が変わる中だが、以前不透明感が強く市場のドル売りが反転するきっかけが見通しづらい。確かに英中銀の利下げ加速観測(執筆時点で5月利下げは100%超織り込み)は強まっているが、織り込み済みのため、23日(水)の英4月製造業/非製造業PMI(速報)や25日(金)の英3月小売売上高が大幅な振れを見せなければ指標面からのサプライズはなしか。一方で、懸念されている英長期金利上昇だが、英中銀は量的緩和縮小の国債売却で超長期債を除外するなど苦慮しており、相場急変の懸念は依然拭えないものの、ひとまず小康を得ている。なお、21日(月)はイースター休暇の祝日で、英市場含む多くの欧州市場が休場となる。

(3) 先週までの相場の推移

先週(4/14~4/18)の値動き: (対ドル) 安値 1.3068 高値 1.3300 終値 1.3299
(対円) 安値 184.39 高値 190.08 終値 188.00



4. 豪ドル

国際為替部 為替営業第二チーム 西 拓也

(1) 今週の予想レンジ: 0.6200 ~ 0.6700 88.00 ~ 92.00 円

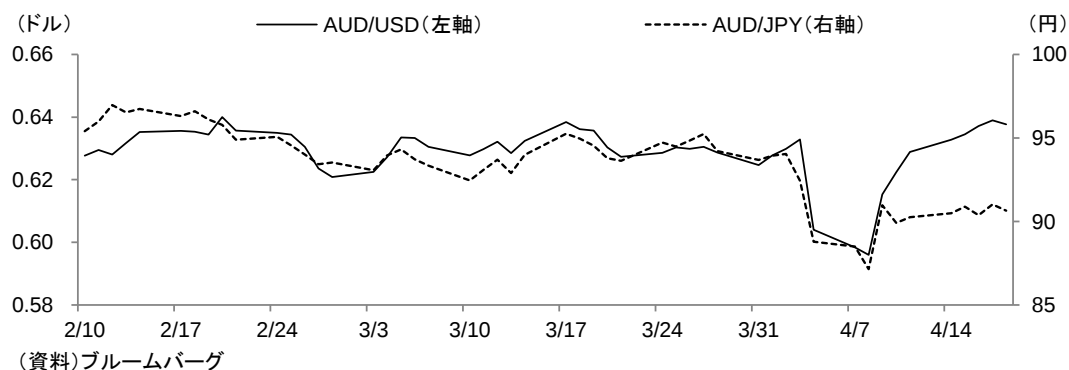
(2) ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週の豪ドル相場は底堅い推移となった。週初14日、豪ドル相場は0.6302でオープン。米相互関税から電子部品除外など関税緩和措置へのトランプ米大統領の発言を好感したリスクオフ後退を背景に上昇地合いが継続。米株先物取引や銅価格の底堅い動きを受けて0.63台半ばまで上昇。米国時間にはドル全面高の中で週安値となる0.6276まで反落したが、引けにかけては米金利低下の流れに豪ドルは再上昇した。15日、米相互関税による混乱が一段落する中で、前日からの上昇基調が継続し米国時間には0.63台後半へ。尚、RBA理事会議事要旨(4/1開催分)が公表されたが、米相互関税の公表前の内容だったためか、反応は限定的だった。16日、欧州時間に伝わった「中国は米国と交渉の用意がある」との報道を受けて人民元や銅価格、米株先物取引が買われ、豪ドルも0.64を試す展開へ。米国時間にはパウエルFRB議長が利下げに消極的な発言を行ったことで米株安とともに上げ幅を縮小。17日、日米通商協議で「為替の議論がなかった」と赤沢経済財政再生相が述べると、ドル安円高誘導懸念が後退したことでドル買い地合いとなり、0.6334まで下押し。その後、海外時間にかけてはドルが反落し、銅価格が反発する流れに豪ドルは週高値となる0.6394まで上昇した。18日、グッドフライデーで世界中の多くの市場が休場となる中、市場は閑散。一日通して豪ドル相場は高値圏で動意なく推移し、結局0.6377で越週した。

今週の豪ドル相場は一段の上昇を予想。米相互関税の一部90日間停止後のリスクセンチメント改善、米国売りを受けた豪ドル相場上昇は一巡し、年初来でレジスタンスとして機能してきた0.6400付近を前に勢いを失っており、方向感を探る展開となっている。今週は豪州内で目立った経済イベントは予定されておらず、引き続き米国要因での相場展開となろう。足許で警戒されているトランプ米政権によるドル安誘導政策に注目が集まる。24日(木)には日米財務相会談が予定されており、為替政策についても協議される。日本に対しては利上げを要求すると見られるが、強硬なドル安誘導要求が明らかになれば豪ドル相場についても一段の上昇を視野に入れておく必要がある。また、23日(水)には米4月PMIも公表されるが、前月同様に製造業PMIが悪化すると予想されており、トランプ米関税による米国内経済の下振れ懸念が強まればドル売り材料となる。他方、中国では1~3月期の政府支出が前年同期比+5.6%と22年以来の高水準であったことがわかった。米中貿易戦争の激化に備えた景気支援であり、今後の景気刺激策にも期待が集まる。経済的結びつきの強い豪州にとってもポジティブな反応となろう。今週は上記以外に、21日(月)に中国LPR(1Y、5Y)、22日(火)にIMF世界経済見通し、23日(水)に豪4月PMI、米バージュブック、25日(金)に米4月ミシガン大学消費者マインド確報値などの公表が予定されている。

(3) 先週末までの相場の推移

先週(4/14~4/18)の値動き: (対ドル) 安値 0.6276 高値 0.6394 終値 0.6377
(対円) 安値 86.05 高値 91.33 終値 90.26



当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。